

会議録（要旨）

会議名称	第5回 豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会
日 時	2024年3月19日（火）13:30～15:30
会 場	豊岡市役所 2階 大会議室
出席者	〔委員長〕 山下委員長 〔副委員長〕 土出副委員長 〔委員〕 井原委員、岸本委員、衣川委員、結城委員 〔アドバイザー〕 藤野氏 〔事務局〕 観光文化部長 米田、文化・スポーツ振興課参事 大岸、 課長補佐 中村、係長 齋賀 市民会館 係長 森田 新文化会館整備推進室長 櫻田、室長補佐 田中、真島 (株)シアターワークショップ 伊東、佐藤、長谷川
欠席者	大倉委員、木村委員
傍聴者	2名
議題等	1 開会 2 協議・報告事項 (1) 第4回検討委員会の確認 ① 貸館事業方針案について (2) 市民ワークショップの結果について ① 芸術文化観光専門職大学生ワークショップ ② 第4回市民ワークショップ (3) 市民参加と運営組織の方針案について 3 その他 (1) 第6回検討委員会 7月開催予定 4 閉会
会議資料	・ 第5回豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会次第 ・ 豊岡市新文化会館管理運営計画検討委員会(第5回)資料 ・ 第4回検討委員会会議録(要旨) ・ 芸術文化観光専門職大学ワークショップ、第4回市民ワークショップ結果報告書(3月発行かわら版)
次回会議	2024年7月開催予定

整備工事の状況について（開会前に事務局説明）

新聞報道や議会での答弁のとおり、3回の入札でいずれも不調となっている。そのため、整備工事については、一旦予算は削除となるが、引き続き対応方法を検討していく。市として、新文化会館を整備していくという方向性に変更はない。一方で、管理運営計画については、計画書の作成に向けて継続して意見をいただきたいので、ご理解とご協力をお願いしたい。

〈審議結果は次のとおり〉

1 開会（あいさつ）〔山下委員長〕

昨年5月から始まり、今年度の委員会は今回で最終回となる。これまでの委員会での意見を事務局で「管理運営計画（案）」としてまとめ、また委員会で確認していくことになる。建設工事については、万博によって建設に携わる人がいないという状況になっている。管理運営計画については、いつオープンしても良いように粛々と進めていきたい。

2 協議・報告事項

(1) 第4回検討委員会の確認

① 貸館事業方針案について（事務局説明）

発言者	意見等
アドバイザー	利用者の立場から、大ホール以外の時間単位での貸出について、大阪府の茨木市文化・子育て複合施設 おにクルでは、時間単位での利用によって大混乱が発生した。転換の時間がなく、次に使う団体が待っており、急いで出ていかなくてはならないような状況になった。利用時間の中に準備や片づけの時間が含まれていることを理解していただく工夫が必要になる。慣れるまでは利用者にとっても運営者にとってもストレスになるため、経験からするとおすすしめし難い。うまく行っている事例があれば紹介いただき、参考にできると良いだろう。また、減免について、全ての減免を廃止することのことが、線引きの難しい部分である。神戸市では、学生がコンサートを主催し、地域の方々が受益者となるような公演を長年行っていたが、市の方針により減免がなくなり、実施が難しくなった。公益性の高い事業、人材育成の要素の強い事業まで減免を廃止すると、これまで行ってきた事業ができなくなってしまうという例もある。
委員長	時間単位貸出の転換については、現場の声も踏まえ、運営を考えて計画に反映いただきたい。減免については、公共的価値の有無を判断するのは難しい。収支にも関わってくるため、引き続き市で検討いただきたい。
委員	貸館の抽選や選考について、びわ湖ホールでは、利用の希望が重なった場合は基本的に話し合いをして、どうしても結論が出ない場合のみ抽選としているとのことであった。
委員長	前回紹介頂いた東京文化会館や、今回のびわ湖ホールは、大きな施設規模の例。地域性を踏まえた会館ごとのやり方について、よく検討する必要がある。

(2) 市民ワークショップの結果について（事務局説明）

- ① 芸術文化観光専門職大学生ワークショップ
- ② 第4回市民ワークショップ

(3) 貸館事業方針案について（事務局説明）

発言者	意見等
委員	まずは人に来てもらわないと、施設の価値もなくなってしまう。週末ごとに人の集まるような魅力ある取り組みを、文化という主眼を持ちながらできれば良い。芸術文化観光専門職大学の学生と関わる中で、若い世代の方々が意欲的に活動し、地域のことを知りたいと思われているということがわかった。そのような方々が活躍できると良い。

委員長 委員	<p>大学との連携はひとつの大きな柱だろう。</p> <p>市民参加のパターンとして、様々な段階、関わり方を示されている。いずれの段階もある程度は準備する必要があるだろうが、多くはホール側の職員が手をかけてお世話をする必要があるだろう。事業パートナーとしての参加のみ、ホールと並走することになるが、それ以外のパターンで、どれほど市民参加に手間をかけられるかを把握しておかないと、ホール側が振り回されることになってしまう。事業パートナーとなる方々が、その他の市民参加のケアをできると理想的だが、それを担える方が現れるのかという課題がある。市民参加というのは手間も時間もかかる取り組みのため、ホール側の覚悟が必要である。</p>
委員長 委員	<p>誰がどのようにコーディネートしていくかという課題がある。</p> <p>行政だけで何かしようとしても市民がついてこないため、市民参加の仕組みを整えるということだろう。新文化会館に何が必要か考えると、美術館における学芸員のような専門職員ではないか。市民参加やイベントをコーディネートしていく知識を持った職員が必要だろう。文化協会をうまく利用してくれる職員がいると変わってくる。芸術文化観光専門職大学の存在は大きなニュースソースでもあるため、豊岡でやっていることを市内のみでなく広く発信することもできる。例としては、県立高校の同窓会は毎年行っているが、昨年の実施で大学生のダンス団体を呼んだら、突然観客にダンスを教え、高齢の方も一緒に参加されるという光景があった。太鼓のチームは若い世代を中心に活動していて、彼らも観客を巻き込んでいた。そのような若い世代ならではの発想を取り入れていきたい。コーディネートする側は大変だが、今までとは違うものができていくのではないか。</p>
委員長 委員	<p>若い世代は地域の起爆剤となる。市の懐の深さが求められる。</p> <p>専門職大学の学生の力は大きい。城崎にもアートセンターがあり、世界的にも注目される施設だが、一般向けに開くことは難しい。それでも、大学生を介すると高校生などにも届くことがある。学生によって今までにない盛り上がりを見せたイベントもある。</p>
委員	<p>高校生に音楽の授業をしているが、オペラ等の映像を見せると「初めて観た」という感想を聞く。若い世代が芸術文化にもっと触れられる機会があると良い。自分が芸術文化の世界に入っていくことを想像すらしていない子どもたちに開かれ、子どもたちが活動できる場所となれば良い。子ども合唱団や子どもミュージカルのある地域で、その卒業生がホールの運営委員になった事例もある。ホールを拠点に活動する市民の団体があると良いのではないか。</p>
委員長	<p>大人が子どもたちに、というのではなく、大学生らがその中間に立って一緒に活動を行うようなことができると良いだろう。またフランチाइズの団体があれば、活動する人だけでなくそれを観る人にも良い影響が期待できる。</p>
副委員長	<p>専門職大学との繋がりは重要だが、そこばかりが大きく見えてしまうと、市民は関わりづらくなってしまわないか。大学とは関わりのない市民の意見も取り入れながら運営していけると良い。小さなことから積み重ねて、大きな市民参加のイベントに繋がっていったら良いだろう。</p>
委員長	<p>市民参加が一部の市民だけのものになってしまう危険性は確かにある。専門職大学への期待値は大きいですが、交通整理することが非常に重要である。</p>
アドバイザー	<p>豊岡の市街地を点ではなく面で考えたとき、専門職大学から新文化会館まで歩くと15分～20分程度、その間の街を面として活性化していくためには、大学と新文化会館の結びつきは重要だと考えていた。同時に、ご懸念のとおり、専門職大学の所有物のようにするのは望ましくないと考えている。専門職大学の学生は、地方都市から豊岡に来た方々が多い。卒業後はいちど大都市に出ないといけないと思っている学生が多く、大都市を知らずにいることに不安を抱えている。一方、東京から来ている学生からは「ここで頑張るんだ」と学生主導でNPOが立ち上がったというような動きもあり、新文化会館の運</p>

委員長	<p>営の一部を担うような可能性も将来的にあり得るだろう。直営施設の参考例として、長久手市文化の家は、専門職員を雇い入れる等しながら25年、上手く運営されてきた。同様に直営でうまくやっていく方法を考える必要がある。また、芸術監督ではなくとも、プログラムディレクターのような、事業が市民にとって良いものか見極めることのできる人材も必要だろう。</p> <p>市民参加は重要だが難しく、進め方も考えながら、慎重に、戦略的に行っていく必要があるということだろう。事務局には本日の意見を踏まえて、管理運営計画に市民参加をどこまで仕組みとして入れていくか、検討いただきたい。ハードの遅れについて説明があったが、逆に考えると助走の時間をより多く取れるということでもある。その時間を使い、市民に愛される新文化会館となるべく、市民参加や自主事業について検討を進めていけると良いだろう。</p>
-----	--

3 その他

連絡事項の伝達（事務局説明）

4 閉会（あいさつ）〔土出副委員長〕

市民会館でこれまで行ってきた市民参加の取り組みがあれば、情報を知りたい。これまで文化活動に関わってこなかった市民にも、どのように参加していただけるか、市民参加を段階ごとに分けて考えていけると良いだろう。